

氏名 小 曳 直 樹

学 位 の 種 類 医 学 博 士

学 位 授 与 番 号 博乙第 2073 号

学 位 授 与 の 日 付 平成元年 12 月 31 日

学 位 授 与 の 要 件 博士の学位論文提出者（学位規則第 5 条第 2 項該当）

学 位 論 文 題 目 左室肥大例における心室性期外収縮
—Holter 心電図と運動負荷 ^{201}Tl 心筋シンチグラムおよび UCG
との対比検討—

論 文 審 査 委 員 教授 原岡昭一 教授 寺本 滋 教授 太田善介

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

左室肥大例における肥大心の形態や病態の差が心室性期外収縮の出現にどの様に関与しているのかを検討する目的で、肥大型心筋症例31例（男25例，女6例，平均年齢55歳）と本態性高血圧の左室肥大例20例（男14例，女6例，平均年齢55歳）を対象に各々の運動負荷 ^{201}Tl 心筋シンチグラムおよび心エコー図の所見と Holter 心電図での心室性期外収縮の所見とを対比検討した。

運動負荷 ^{201}Tl 心筋シンチ陽性率は肥大型心筋症例で高く，なかでも非対称性中隔肥厚型において高率であった。

肥大型心筋症例の運動負荷 ^{201}Tl 心筋シンチグラム陽性例において grade 4a あるいは 4b の心室性期外収縮が高率に認められた。

非対称性中隔肥厚型心筋症例において負荷シンチ所見が陽性で，grade 4a あるいは 4b の VPC が認められた 8 例中 4 例は陰影欠損部位が前壁あるいは中隔壁の肥厚部位に一致して認められ，更にこれらの症例では grade 4b の VPC が出現し易い傾向が認められた。

これらの事より肥大型心筋症例における運動負荷 ^{201}Tl 心筋シンチグラムの陽性所見が grade の高い心室性期外収縮の出現に何等かの関係がある可能性が考えられた。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は肥大型心筋症に重症な心室性期外収縮の発生が多く，本症の急死にも関連が深いものとして重要な知見を得たものとして，価値ある業績であると認める。

よって本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。